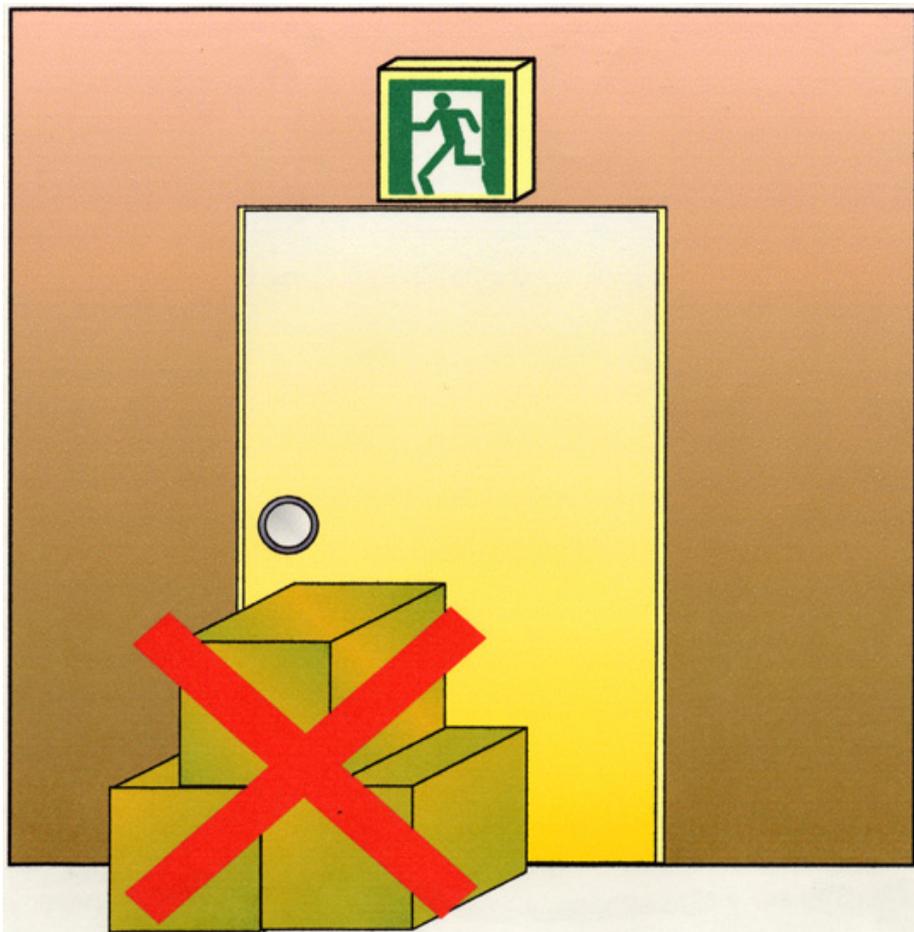


小規模ビル

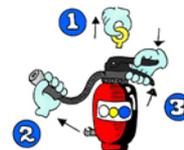
消火訓練等マニュアル



横浜市消防局



あなたにも出来る訓練



- 消火訓練 ・ ・ 消火器訓練、屋内消火栓訓練
- 通報訓練 ・ ・ 119 番通報メモ
- 避難訓練 ・ ・ 階段 ・ 通路 ・ 避難器具を使用した場合
- 避難器具 ・ ・ 緩降機
- 日常点検のポイント

もしもの時に役に立つ

- 特に多くの人が入り出る飲食店、物品販売店舗、風俗店等の建物では迅速な初期消火、通報及び避難誘導等が求められています。
- このマニュアルに出てくる消火器等は、皆さんの周りにもきっとあります。もしもの時に備えて訓練をしましょう。
- 消火器等の位置を確認し、あなたの建物やお店に合わせて、訓練を実施しましょう。

注意事項

- 訓練を実施するときは、けがや物を壊すことのないように十分気を配りましょう。
- 2号及び簡易1号屋内消火栓の訓練をする場合は、ホースを外すとポンプが起動するものがあります。訓練後にはポンプの停止等必要な措置を必ず行ってください。
- 119番通報は緊急用です、訓練の時には、実際に119番通報をしないで訓練を行ってください。
- 避難器具を使用した訓練は、事故防止のため消防機関、消防設備士の立会のもとで行ってしてください。

1

消火訓練

●初期消火の目的=火災を早期発見し、被害を最小限にとどめること

1 火災発生



電話が長引いているうちに、油鍋に火が入りました！

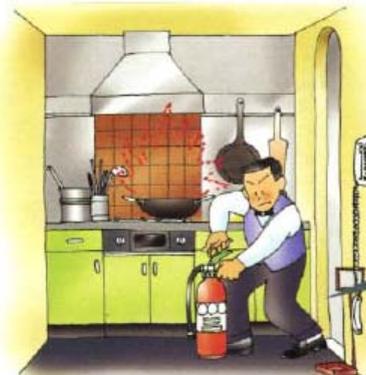
2 初期消火判断



天井まで火は届いていません。まだ消すことができます。

「火事だ！火事だ！」と叫びながら、周囲に火災を知らせます。

3 消火器の準備



慌てずに消火器を準備します



1 連搬する時



2 ピンを抜き

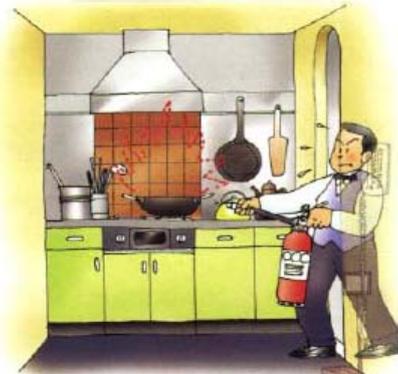


3 にぎる



4 ノズルを火元に向ける

4 消火活動



火元に向けて消火剤を放出します。火が消えたら、ガスの元栓を閉めます。

※ 消火後、天ぷら鍋の温度が完全に下がったことを確認してください。

●よくある失敗例（油鍋に水）



油鍋に向かって水をかけると、炎が飛び散ってしまい大変危険です。

1

小規模ビル避難等訓練マニュアル

●屋内消火栓の操作訓練

消火訓練

屋内消火栓には2つのタイプがあり、それぞれ操作要領が違います。

1 1号消火栓

1号消火栓は、ホースが折りたたまれて消火栓ボックスに収納されているため、ホースを延長した後でないと水をホース内に流すことができません。このため、ホースを火元付近まで延長し放水する人と消火栓のバルブを開放する人の、最低でも2人の操作員が必要となります。

①消火栓ポンプ起動



発信機のボタンを押し、消火栓ポンプを起動します。

②ホース延長



ホースにねじれがないように確認しながら延長し、出火箇所に向かいます。

③バルブ開放・放水

出火箇所に接近した操作員の放水準備ができたなら「放水はじめ!」の合図で、消火栓のバルブを開放し放水します。

注意



ホースを延長する前にバルブを開けると、水で充満したホースがボックス内に括まって取り出せなくなる事があります。必ず操作手順を守ってください。



放水はじめ!

2 2号消火栓・易操作性1号消火栓

2号消火栓・易操作性1号消火栓は、ホースがドラムに収納されているため、収納状態でもホース内に水を流すことができます。このため、一人で操作することができます。

①バルブ開放

バルブを開放すると消火栓ポンプが起動します。



②ホース延長



ホースを持ちながら、出火箇所に向かいます。

③放水

ホースノズルのコックを開き放水します。



注意

1. 訓練中は安全を管理する担当者を設けましょう。
2. ホースを延長するとき障害となる物がないか確認しましょう。
3. 放水する時はノズルから絶対に手をはなさないようにしましょう。
4. 火災の時、いきなりドアを開けると空気（酸素）が流れ込み一気に火勢が強まる場合がありますので、まずドアを少し開いて、様子を見てからドアを開けましょう。

横浜市消防局

2

通報訓練

1 火災発生

ベル鳴動
ジリジリ!



自動火災報知設備のベルが鳴りました。
どこかで火災です。

2 火災発生場所の確認



すぐに受信機で出火階を確かめ、
現場に行き、火災の有無を確認し
ます。



3 館内への報知



ビル内に大きな声で、火事を知らせ
ます。

携帯拡声器等が準備されていれば、なお
良いでしょう。



4 消防へ通報

119番通報は緊急用です。
訓練の時は、実際に119番
通報をしないでください。



速やかに消防に通報します。

- 火災か救急か
- 所在地、ビル名
- 何が燃えているか
- 階数
- 目標物
- 危険物の有無など
- 通報者氏名・電話番号を正確に通報します。

●通報に便利な119番通報メモ

落ち着いて、119番通報メモの項目にそって通報してください。

119番通報メモ

1 火事ですか・救急ですか？

火事です・救急です

2 住所

市・区・町・村 町 丁目 番号

建物(ビル)の名称・階数・店名は…

3 何が燃えていますか (出火箇所はどこですか?)

4 目標となるもの

近くにある目標となるものは…

5 通報者の氏名

あなたの氏名

6 通報者の電話番号

電話番号

この公衆電話の番号は… ()

※この119番通報メモに通報項目を記入して、電話機の前などに貼っておくと便利です。

携帯電話・PHSからの通報

携帯電話・PHSからの通報は、その地域の「代表消防本部」を経て管轄の消防本部につながります。管轄外で土地勘に不慣れなため、通報内容の確認に手間取るなどの問題が起きていますので、できるだけ詳しく住所・建物名を把握して通報してください。



通報事項

- 火事ですか・救急ですか？
- 所在地町名、番地、ビル名
- 燃えているものは何ですか
- 目標となるものは？
- あなた(通報者)のお名前
- 携帯電話の番号(再通信のため)

階段・通路を使用した場合

1 火災発生

ベル鳴動

ジリジリ!



自動火災報知設備のベルが鳴りました。
どこかで火災です。

2 火災発生場所の確認

2Fで火事です。
落ち着いて指示に従ってください!



すぐに受信機で出階を確かめ、現場に行き、火災の有無を確認します。

お店にいるお客様に火災の発生を知らせ、指示に従うように伝えます。

イラストのように、携帯拡声器等が準備されていれば、なお良いでしょう。

3 館内への報知

4 避難誘導



エレベーターの使用を禁じ、非常口、避難階段を示します。

頭を低く、おしぼり、ハンカチを鼻・口にあてて煙を吸い込まないように指示を出します。



5 避難者の確認

皆さん無事ですか!



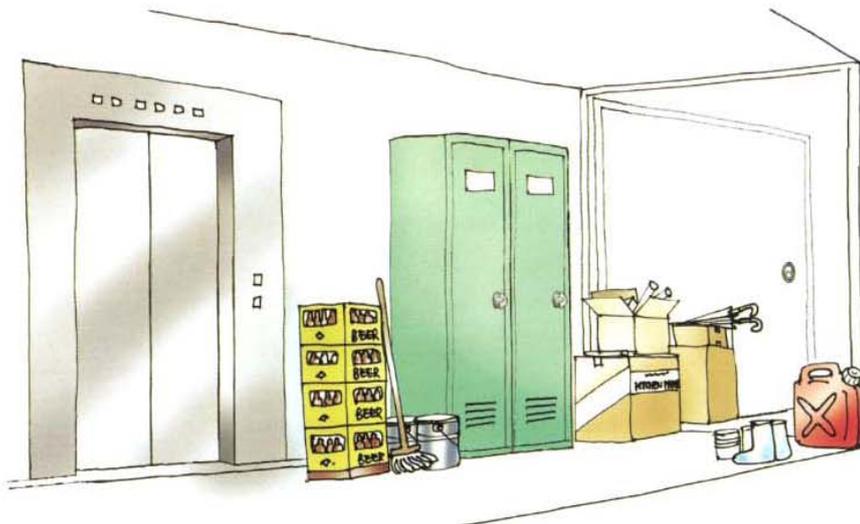
お客様の人数、けが人の有無を確認し、もし、けがをした人及び逃げおくれた人がいれば、消防隊に報告します。

●避難通路・避難階段の維持管理

避難通路



これでは
消防法違反です。



避難通路に物が放置されていたり、非常口がふさがれていると、避難経路が断たれ、大変危険です。

避難階段



これでは
消防法違反です。



避難階段が倉庫代わりになった状態。階段に物が放置されていると、避難経路が断たれ、大変危険です。

避難器具を使用した場合

1 火災発生

ベル鳴動

ジリジリ!!!



自動火災報知設備のベルが鳴りました。
どこかで火災です。

2Fで火事だ〜!

2 火災発生場所の確認



避難階段に煙が充満し、使用できない状況です。

3 館内への報知



お客様を避難場所に誘導します。

避難器具を確認します。

4 避難器具の設定



落ち着いて避難器具を装着して・・・
付け方を間違えないように。

5 避難誘導・補助

避難器具の使い方を指示しながら、
避難を補助します。



落ち着いて!
ロープをしっかり
握って
うしろ向きに出ますヨ!

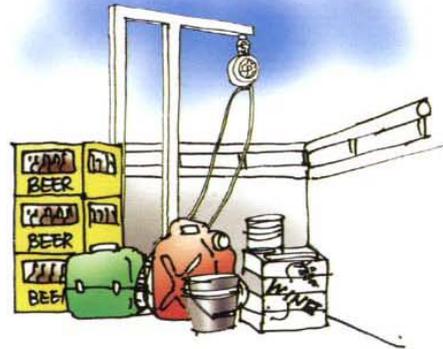
※訓練のときは、事故防止のため消防機関、消防設備士の立会のもとで行うのがよいでしょう。

●避難器具の設置条件

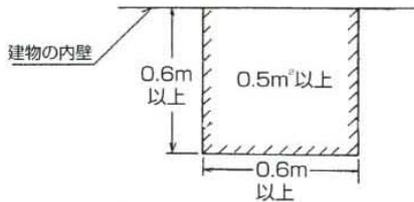


避難器具の維持管理

[緩降機の場合]



◆操作面積



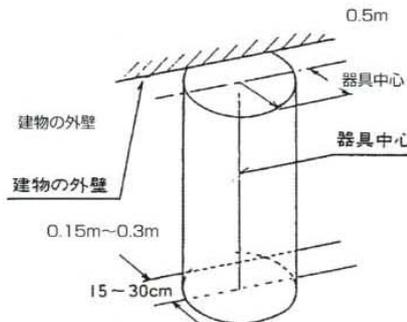
このような状態では、一刻をあらそう非常時に避難器具が使えません。避難器具の周囲には物を置かないようにしてください。



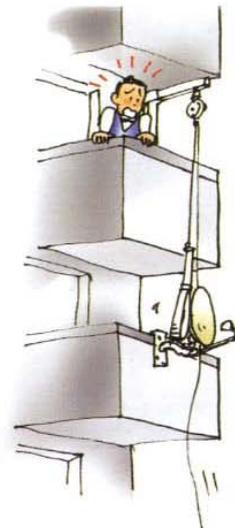
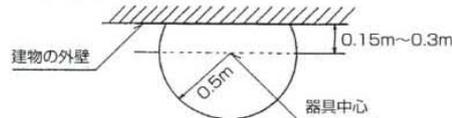
降下空間の維持管理

[緩降機の場合]

◆降下空間の大きさ



◆避難空地



このような状態では、避難器具が効果的に使えません。スムーズに降下できるように措置してください。

緩降機



1 取付金具に調整器がしっかりと取り付けられているか確認します。



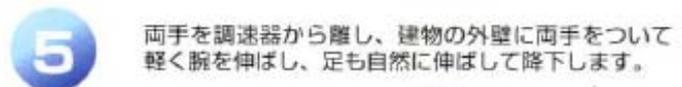
2 降下空間および付近の安全を確認し、リールを地上に向かって落とします。



3 着用具を広げて頭からかぶり、ねじれがないように脇の下にしっかりと着装します。



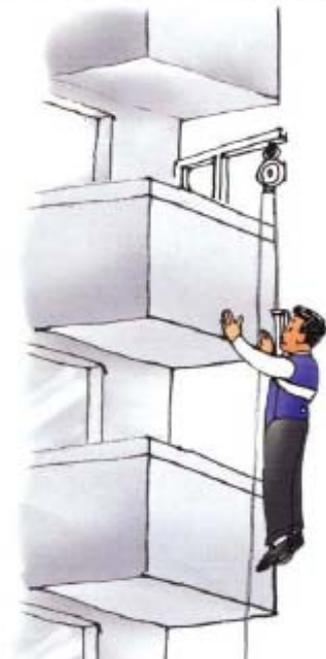
4 調整器の根本のロープ2本をしっかりと握り、後ろ向きに外に出ます。



5 両手を調整器から離し、建物の外壁に両手をつけて軽く腕を伸ばし、足も自然に伸ばして降下します。

緩降機のチェックポイント

- 着用具・ロープの傷みはないか
- 降下空間に障害物はないか
- 格納箱周辺に物は放置されていないか
- 地上に降下スペースは確保されているか



日常点検のポイント

1 消火設備

- ・消火器がどこに置かれているかを確認する。
- ・消火器がすぐに取り出して使えるのかを確認する。
- ・消火器の底部とその周辺が錆びていないかを確認する。



- ・屋内消火栓の表示灯が点灯しているかを確認する。
- ・屋内消火栓ボックスの周囲に物が置かれていないかを確認する。
- ・ホースはきちんと収納されているかを確認する。



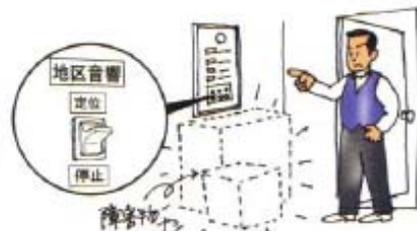
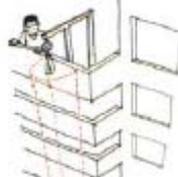
2 警報設備（自動火災報知設備、非常警報設備）

- ・電源が切れていないかを確認する。
- ・非常警報設備の起動装置に容易に近づけるかを確認する。
- ・自動火災報知設備の受信機のベルスイッチが停止位置になっていないかを確認する。



3 避難器具

- ・避難器具に容易に近づけるかを確認する。
- ・避難器具周辺に物品等がないかを確認する。
- ・避難器具を使用する窓と窓から地上までの空間が使用時に支障ないかを確認する。



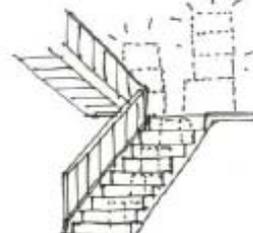
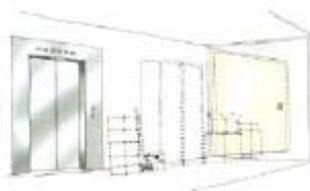
4 誘導灯

- ・誘導灯があることが分かりにくい照明、装飾品がないかを確認する。
- ・誘導灯の照明が切れていないかを確認する。



5 避難施設

- ・避難経路となる廊下、階段等に避難障害となる物品が放置されていないかを確認する。
- ・防火戸が閉まるのに支障があるストッパー、ビールケース等がないかを確認する。



以上の項目に不備がある場合は、速やかに改善しましょう。
皆さん一人々が防火を心がけ安心して快適な環境を作りましょう。